



ぼくは利根川の
水の精「ボムム」。
利根川の源流で君と落ちた
1滴の水が生まれをんだ。
ぼくといっしょに、
川と水のことを
楽しんでみよう。

もくじ

- P1 川にまつわる話
- P2-3 渡良瀬遊水地探検
- P4-5 水のとたかい
- P6 川ってなあに? その
- P7 とびくすアンケートの結果報告
- P8 ボトムスの楽校

川の子ども新聞

2004
春号

上毛新聞



うららか、水、ほほえむ。

うららか、らんらん、春らんまん。
花も、空も、水もほほえむ。
また、みんなといっしょにあそべる。
うれしい季節がやってきたんだ。

御記作公誠(大東町)

町にまつわる話 6

大水に流されない大日様

橋本 春夫

館林市大馬町の吉良寺(真言宗)は、室町時代に大火に遭っています。また、あの年には大水で渡良瀬遊水地が決壊し、本尊をはじめ寺宝がすべて流されてしまいました。そのために、南方に当たる地に現在のお堂が建てられました。

本尊はどのような大水にも流されないようにという願いを込め、高さ三尺八寸約一・四八メートル、重さ百貫約三十五キログラムもある青銅製の大日如来座像を下野国天明(現栃木県佐野市)の佛師に作らせて安置したそうです。

村役人を神に祭った 五社大権現

昔は、人々のために尽くした偉人を神に祭りました。祭られたのは、徳臣秀吉や徳川家康など有名な人物が多かったのですが、ときには、その地域、その時代に生きた人だけが知るところで普通の人の場合もあります。

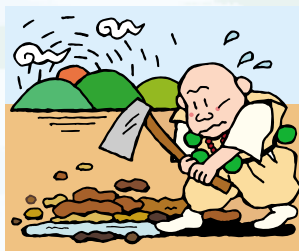
館林市上三林町の龍神神社境内にある、天保十年(一八三九)建立の五社大権現もその一つです。地元も知る人の少ない小さな石宮ですが、かつては「五社様」と呼ばれ、太平洋戦争直までは秋祭りも盛んに行われていました。

この地域は順体池地上にあり、農業水利に恵まれたので、たまたび日照りに遭い、農作物に被害が出てしまいました。そこで村人は、村役人をお願いをして用水を取り入れる工事をしてもら

うことになりました。この仕事をよくした五人の村役人を神様として祭り、その恩を忘れないうちに「五社様」なのです。

修験者が一日で掘った池

同じように農業用水に苦労した館林市赤生田町の永明寺(真言宗)には、順体坊池と呼ばれるひょうたん型の池が今も残っています。昔、順体坊といふ不思議な僧がいて、ある日、朝朝前に弁財天の池を掘ってしまいました。



この池はいかなる日照りのときでも水が溢れることがなく、日照りのときは順体坊池の水くみ上げ雨乞いをする、必ず雨が降るといわれました。雨でいには、村の長者たちが権になり、谷川から順体坊池までを何度も往復して祈願をしたらと伝えられています。

①「池は、いかなる日照りのときでも水が溢れることがなく、日照りのときは順体坊池の水くみ上げ雨乞いをする、必ず雨が降るといわれました。雨でいには、村の長者たちが権になり、谷川から順体坊池までを何度も往復して祈願をしたらと伝えられています。」

②「池は、いかなる日照りのときでも水が溢れることがなく、日照りのときは順体坊池の水くみ上げ雨乞いをする、必ず雨が降るといわれました。雨でいには、村の長者たちが権になり、谷川から順体坊池までを何度も往復して祈願をしたらと伝えられています。」